

議会だより

あしや

No.214

令和4年
8月25日発行



コロナに負けず
みんな笑顔



6月
定例会

特集 町独自支援策の歩み	2 P
6 月定例会	4 P
5 月臨時会	7 P
町政を問う一般質問	8 P

表紙の町民の声は2、3ページに掲載しています。

支援策の歩み



第5弾

- ・大学生等生活応援給付金
- ・お米購入補助券給付
- ・家庭用ごみ袋配布
- ・飲食店感染防止対策助成金
- ・公共施設手洗い台水栓の自動化
- ・芦屋町図書館除菌機整備
- ・感染防止宣言ステッカー

町独自の感染防止宣言
アッシーステッカーを発行
する考えは。(第5弾へ)



長島議員

第6、7弾

- ・30%プレミアム商品券発行
- ・生活応援商品券発行
- ・町内事業者一時支援金
- ・居宅サービス事業等従事者
向けPCR検査
- ・自宅療養者等生活支援サービス

居宅サービス事業などの従事
者にも無料でPCR検査を行
うべき。(第7弾へ)



川上議員

第8、9弾

- ・35%プレミアム商品券発行
- ・子どもたちなどへの花火配布
- ・子育て世帯への臨時特別給付支援

第10弾

- ・35%プレミアム商品券発行
- ・町内事業者事業復活支援金
- ・家庭用ごみ袋配布

町の声



永沼さん家族

芦屋町の政策が柔軟で支援も多く、町外の知人
からも「羨ましい」との声がたくさん。

現金給付は特に助かる！商品券で買い物客も増
え、芦屋町も盛り上がり、一石二鳥ですね！

電気料金や水道料
金の補助は良かっ
たです。

K. Mさん(80歳)

ごみ袋の配付は
とても助かりました。

M. Aさん(88歳)

一言インタビュー

町独自支援策に一言



令和4年8月25日 第214号

議会だよりあしや

特集

～コロナ対策～

独自町

第1弾

- ・緊急生活支援給付金
- ・上下水道料金支援給付金
- ・家庭用ごみ袋配布
- ・町内事業所事業継続支援給付金
- ・テイクアウト・デリバリー支援



内海議員

事業継続支援は事業所や店舗があることが条件となっているが、農業・漁業はなぜ対象外なのか。(第2弾へ)

第2弾

- ・ひとり親家庭等支援給付金
- ・飲食店等家賃支援給付金
- ・30%プレミアム商品券発行
- ・医療・介護従事者感染症対策給付金
- ・介護事業者等感染症対策給付金
- ・農業漁業者事業継続支援給付金

第3弾

- ・電気料金支援給付金
- ・高齢者生活応援商品券給付
- ・子育て世帯生活応援商品券給付
- ・あしやっ子応援給付
- ・町内事業者等家賃軽減支援金
- ・子どもたちへの花火配布
- ・サプライズ花火の実施



萩原議員

コロナ対策でインフルエンザ予防接種助成対象者を増やすべき。(第4弾へ)

第4弾

- ・インフルエンザ予防接種助成金



宮川 安梨さん
啓汰くん

町の声

啓汰くん：サプライズ花火が嬉しかったです。

安梨さん：家族で飲食店をやっているので、支援金などは本当にありがたかったです。

反映！

感染症防止対策助成金で、より安心して食事を提供することができました。



S.Fさん(34歳)

電気料金給付金があると冷房が付けやすく熱中症予防になり助かります！



Y.Tさん(32歳)

6月
定例会

6月9日～20日

歴史文化資産を生かしたまちづくり

今後の観光振興に期待

条例

◆組織機構の見直し に関する条例改正

歴史的文化資産の保存・継承を一体的に行い、芦屋町の活性化を総合的に推進するため、教育委員会部局が所掌する歴史民俗資料館の管理や文化財保護など歴史文化に関する事務を町長部局に移管します。

※観光振興を視野に入れ、「釜の里」と「歴史の里」の連携を強化。

※「芦屋釜振興課」を「芦屋釜・歴史文化課」に変更。



整備が進まない山鹿貝塚

問

芦屋町は歴史文化に優れており、教育分野で活用すべきと考えるが、町長部局へ移管された場合の具体的な計画は。

答

現時点では具体的なプランはないが、山鹿貝塚などの今後の活用について検討が一層進むと考える。

問

「芦屋釜振興課」を「芦屋釜・歴史文化課」に変更する理由は。

答

町長の権限と責任の下、観光やシティープロモーションなどの地域振興関連行政と一元的に担当することにより、歴史的文化資産を生かしたまちづくりと迅速な意思決定ができる。

問

課名から「振興」の文言が削除された理由は。

答

芦屋釜は振興していく要素が強いが、文化財は保護という側面が強いことから「振興」をつけず、「芦屋釜・歴史文化課」とした。

賛成討論

歴史文化を生かした町の魅力づくりに期待

萩原洋子議員

今回の短期間の条例改正には驚いたが、組織機構の見直しでは「芦屋釜の里」と「芦屋歴史の里」の連携強化、歴史的文化資産について、観光及びシティープロモーションなどの連携強化を目的にしており、今後、芦屋釜の振興とともに、山鹿貝塚など多くの文化財の保護やさらなる活用の検討及び促進により、今以上に歴史文化を生かした町の魅力づくりに期待できる。よってこの議案に賛成する。



PCR検査を無料にしてほしい。

N. Tさん(69歳)



果ごもり者に対する支援を。

O. Kさん(68歳)

一言インタビュー

町独自支援策に一言



令和4年8月25日 第214号

議会だよりあしや

物価高騰への生活支援

5億1500万円の増額補正

補正予算による町独自支援策第11弾	補正額
生活応援商品券 1人につき1万円の商品券を給付	1億3700万円
上下水道料金及び電気料金支援給付金給付事業 1世帯につき2万円	1億2696万円
高齢者生活応援給付金 65歳以上の高齢者1人につき2万円を給付	9000万円
子育て世帯生活応援給付金 18歳までの対象児童1人につき2万円を給付	4600万円
高齢者・障がい者福祉施設等支援金 福祉施設などに5～10万円の支援金を給付	200万円

※1万円以下は切り捨て。



山笠に参加する山形さん家族

◆生活応援商品券

新型コロナウイルス感染症や物価高騰に対し、町民1人につき1万円の商品券を給付します。

問 今回もコンビニなどでも使えるのか。

答 今回もコンビニなどでも使えるよう、調整を行っていく。

◆子育て世帯生活応援給付金

平成16年4月2日から令和4年7月1日までの間に生まれ令和4年7月1日時点で芦屋町に住民登録がある児童1人につき2万円を給付します。

問 高齢者への給付金は令和4年度中に65歳以上になる人が対象になっているが、子育てへの応援給付金は令和4年7月1日までに生まれた子どもが対象となっているのはなぜか。

答 現状の物価高騰にかかる支援で、7月1日までに生まれた子どもを基準としている。

図書館の除菌機導入で安心して本を借りることができた。



S.Uさん(31歳)

商品券で生活必需品を買うことができて良かった。



Y.Tさん(51歳)

6月定例会の議案の賛否一覧

議案の賛否を掲載しています。

※議長には、賛否の意思表示をする表決権がありません。

ただし、賛成・反対が同数になった場合、可否を決める裁決権があります。

○：賛成、×：反対を表しています。

議席番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	賛成	反対	審議結果
議案名 / 議員名	内海	中西	長島	萩原	信国	本田	松岡	妹川	小田	川上	横尾	辻本			
芦屋町教育に関する事務の職務権限の特例に関する条例の一部を改正する条例の制定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	11	0	可決
令和4年度芦屋町一般会計補正予算（第2号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	11	0	可決
令和4年度芦屋町地方独立行政法人芦屋中央病院貸付金特別会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	11	0	可決
令和4年度芦屋町公共下水道事業会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	11	0	可決
第1分団ポンプ自動車購入契約の締結	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	11	0	可決
令和4年度芦屋町一般会計補正予算（第3号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	11	0	可決
芦屋町議会委員会条例の一部を改正する条例の制定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	11	0	可決

議会の活動を報告します

おんがレガッタ

5月21日（土）

3年ぶりに行われたおんがレガッタに参加しました。大会に向けて練習を重ね、本番に臨みました。久々に他町とも交流ができ、イベント再開の兆しも見え、有意義な一日となりました。



大雨洪水避難訓練

6月18日（土）

令和4年度芦屋町大雨洪水避難訓練が行われました。家庭などに設置された戸別受信機で災害情報を確認したのち、議員は自治区の避難訓練や避難所開設訓練などに参加しました。



訂正

議会だより213号7ページの職員・特別職・議会議員の期末手当引き下げの表記に誤りがありました。おわびして訂正します。

（誤）%（年間）
（正）月分



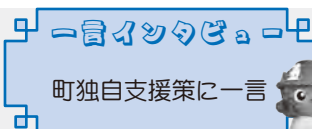
ひとり親家庭に対しての支援策が生活の助けになった。

M.Cさん(41歳)



多くの支援策があり、芦屋町民で良かったと感じた。

H.Aさん(53歳)



町独自支援策に一言

令和4年8月25日 第214号

議会だよりあしや



町もウクライナに人道支援

9600万円の増額補正

◆ウクライナ人道支援金(500万円)

金(500万円)

問 財源と算出根拠は。

答 競艇場からの繰入金で熊本地震などの時と同額の500万円にした。

問 競艇場の収益を戦争のあつているところに寄付するのは良いのか。

答 収益の使途は、社会福祉の増進、医療の普及、住民福祉の増進などとなっており、人道支援に充てることは問題ないと考え。

◆損害賠償の額の決定及び示談(1170万円)

町有地法面で土砂崩れが発生し、隣接する町内事業者の事務所などを損壊させたもの。

◆ワクチン接種業務委託(約7600万円)

託(約7600万円)

問 毎回電話がつながらない、朝早い時間から町民会館に並ぶといったこともあった。

やはり電話予約が一番いい。1回線しか増やせないのか。

答 受付窓口をメインに考えているが検討する。



ワクチン接種予約受付会場

5月臨時会の議案の賛否一覧

○：賛成、×：反対を表しています。

議席番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	賛成	反対	審議結果
議案名 / 議員名	内海	中西	長島	萩原	信国	本田	松岡	妹川	小田	川上	横尾	辻本			
令和4年度芦屋町一般会計補正予算(第1号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	11	0	可決
令和4年度芦屋町モーターボート競走事業会計補正予算(第1号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	11	0	可決
損害賠償の額の決定及び示談	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	11	0	可決

大学生10万円給付は本当に助かりました。また支援してほしい。



H.Sさん(20代)

電解水やごみ袋無料配布は日常的に使うものなので大変ありがたかった。



T.Yさん(40代)



町政を問う 一般質問



一般質問会議録

6月10日に7人が一般質問を行いました。

一般質問とは、議員が町の行財政全般にわたり、事務の執行状況や将来に対する方針などの所信を聞き、報告や説明を求め、疑問点をたずねることです。

ページ	質問議員	質問事項
9	松岡 泉	乳幼児健診 ヤングケアラー支援
10	川上 誠一	インボイス制度 加齢性難聴の補聴器購入助成
11	本田 浩	高齢者の就労 地域包括ケアシステム「自助・互助・共助・公助」
12	萩原 洋子	選挙の投票率向上 農業者支援
13	長島 毅	芦屋港レジャー港化の現状と今後の展望 新たな観光資源と魅力づくり
14	信国 浩	防災に関連する取組み 学校教育における部活動支援
15	妹川 征男	バス停のベンチ、上屋の設置 ナイトー設備

議会だよりは要約しています。詳しくはホームページの会議録や録画中継でご確認ください。



まつおか いずみ
松岡 泉



録画中継



乳幼児健診

子ども健診費の助成は

健康・こども課長

財政負担軽減策を検討

問 難聴は早期に見出し、適切な支援を行うことで、

より有効な音声言語の発達を促すことができる。新生児健診で異常が認められた場合の対応は、

答 検査を実施した医療機関や新生児訪問を行う町の保健師が福岡県乳幼児聴覚支援センターと連携してフォローし、保護者からの相談対応や早期受診につなげる体制を構築している。

問 国は聴覚検査費の助成について各自治体に協力を依頼している。町も検査費の助成を行うべきでは。

答 先天性の難聴などは早期の治療が必要である。新生児聴覚検査の一層の受診率向上や子育て世帯の財政負担軽減のため、必要に応じて公費助成など効果的な施策を検討していく。

問 3歳児の視覚検診に最新の検査機器を導入している自治体もあるが、町の対応は、

答 最新機器「スポットビジョンスクリーナー」は、必要性などを十分に検証した上で、購入の是非を検討する。



スポットビジョンスクリーナーの使用図
(株)ジチタイワークス提供

ヤングケアラー支援

問 政府は、令和4年度から3年間をヤングケアラー支援強化集中期間に設定した。町の支援の方向性は、

答 不登校や勉学の妨げとといった子どもの人権を侵害する恐れがある場合は、町

として速やかに対応する必要がある。令和4年度から新設された子ども家庭総合支援拠点やスクールソーシャルワーカー、児童相談所などの関係機関と一層の連携強化を図っていく。

問 国が支援強化策として財政支援を行う中に早期発見のための実態調査も含まれているが、町独自の実態調査は、

答 現在、町内の小中学校で定期的に生活アンケートを実施し、ヤングケアラーなどの把握に努めている。

問 早期発見策の一つとしてスクールソーシャルワーカーの活用が考えられるが、増員する考えはないか。

答 現状として、スクールソーシャルワーカーを増員する予定はない。今後、虐待など子どもの人権を侵害する事案の発生状況により、関係機関と協議を行っていく。

※注1：ヤングケアラー

一般に、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話を日常的に行っている子どものこと。

インボイス制度

インボイス制度の影響は

税務課長

税負担増加が考えられる

かわかみせいいち
川上 誠一

録画中継

問 ^{注1}インボイス制度の影響を、どう見るのか。

答 消費税の課税事業者は免税事業者から行った仕入れに係る消費税について仕入れ税額の控除を受けることができなくなるため、税負担が増加することが考えられる。また、免税事業者はインボイスが発行できないため、課税事業者から取引を見直される可能性がある。インボイスの発行を希望する事業者、特に免税事業者は、税務署に課税事業者への転換や登録申請が必要と考える。

問 事業者の中に混乱が予想される。町はどうするのか。

答 商工会が相談窓口として7月と9月にインボイスの講習会を開催する予定であり、今後も制度の開始に向けて定期的に開催する。町は広報紙などで周知を行う。

問 町の企業会計への影響は。

答 インボイスに対応するため、公共下水道事業は会計システムの改修に121万円の予算を計上している。また、ボートレース事業は会計システムの更新に約600万円の予算が必要と考える。

問 町長は制度の導入をどう考えるのか。

答 町は商工会、税務署など関係機関と連携しながら、制度の周知、事前準備に取り組み、町としての責任は果たしたいと思う。

インボイスのイメージ図

(全国商工会連合会発行「一目でわかる！インボイスの手引き」より)

加齢性難聴の補聴器購入助成

問 加齢性難聴で認知機能が低下し、うつ病や認知症の要因になっていることが判明している。最近、補聴器購入に助成を行う自治体が増えているが、認知医療の観点から実施すべきでは。

答 国の公的支援制度の創設を要望する。町としては県や他の自治体の状況を注視する。

問 補聴器を上手に使うには補聴器相談医や認定補聴器技能者の援助が必要だが、体制はあるのか。

答 月に2回、第2・第4月曜日に補聴器業者による巡回相談を行っている。補聴器を所有していない方には簡易な検査を行い、必要性があれば耳鼻科の案内などを行っている。

※注1：インボイス制度

適格請求書（消費税の税率や税額を区分して記載した請求書）を用いて消費税を計算すること。

ほんだ ひろし
本田 浩



録画中継



高齢者の就労

多様な能力の活用は

福祉課長

就労支援方策の調査研究

問 高齢者就労の取り組みは。

答 高齢者能力活用事業を行っており、事業の運営は芦屋町社会福祉協議会に委託している。

問 高齢者能力活用事業とシルバー人材センターの違いは何か。

答 高齢者能力活用事業は、低価格で地域の人に利用してもらえ、サービスの多様性の面で民間企業に劣る。

シルバー人材センターは、事業者として労務単価や諸経費率を自由に設定でき、近隣市町村センターから人材を派遣してもらえる。しかし、新たな法人設立のため維持管理経費が増大し、利用者の負担が増える。

問 県内市町村の9割がシルバー人材センターに関わっている現状から、近隣市町村との連携など地域の利用者、勤務する人の双方にとってデメリットよりメリットの方が大きいのでは。

答 近隣市町村と相互の人材派遣の可能性が増えることで、安定的な業務提供や就労につながり、業務単価アップは就労者の処遇改善のメリットがある。利用者側の視点では、費用負担の上昇がデメリットになることが想定される。

問 高齢者の多様な能力を活用するために登録人数の増加や仕事内容に幅を持たせるなど、町民のニーズに応えることが必要では。

答 芦屋町社会福祉協議会と協議を行う。また、シルバー人材センターへの移行は、芦屋町単独設置や近隣自治体との共同設置が考えられる。関係機関や近隣市町の取り組み状況など、高齢者の就労支援の調査研究を進めていく。

地方包括ケアシステム
「自助・互助・共助・公助」



高齢者能力活用事業の草刈作業

問 「高齢化」から「超高齢化」に向かう中で、地域を支える互助の団体と町の関わりはどのようになっているのか。

答 地域を支える互助団体は芦屋町老人クラブ連合会、芦屋町手をつなぐリボンの会、あしや助けあい・支えあいの会（通称あしたの会）などがある。町は、広報あしやで会の活動を取り上げ、会員数の増加に向けた支援を行っている。

農業者支援

農業者支援の拡充を

産業観光課長

求められる支援策を検討

萩原 洋子
はぎわら ひろこ

録画中継

問 芦屋町の農業者の現状は。

答 2015～2020年の調査データから農家数は減少傾向にあり、農業従事者の減少と高齢化が進んでいる。また、調査の中で38件中17件の農家は「5年以内の後継者を確保している」としているが、2件の農家は「規模縮小」と回答している。

問 後継者不足も深刻である。国の補助金制度の要綱は複雑で、要件が合わず制度を活用できなかったりする一方で、定期的な農業機械の買い替えは経営を圧迫している。やる気のある農業者が積極的に投資できる町独自の農業支援策の拡充が必要ではないか。

答 今後、補助制度の条件緩和や内容などを見直し、芦屋町の現状にあった求められる支援策を検討する。

問 新規就農者への支援はホームページに掲載している就農準備資金などですべてか。

答 「水田農業担い手機械導入補助金」などの機械導入支援もある。

問 新規就農者支援は町長のホームページにも掲載しているが、町もしっかりと支援を行うとの理解で良いか。

答 担い手の支援策は、しっかり周知していく。



小学校の稲刈り体験

選挙の投票率向上

問 3年前に一般質問で提案した投票率向上のための施策は行うのか。

答 来年の選挙から、選挙当日に巡回バスを運行させ、選挙公報は紙ベースと併せて町のホームページにも掲載する。

問 若者への施策は。

答 18歳に到達した人へ啓発チラシなどを送付するほか、公式LINEなどで若者の投票率向上を図る。

問 子どもの投票への意識づくりで、親と一緒に投票に来た子どもにお菓子くじを引いてもらうといった事業を行っている自治体がある。投票行動と家族の関係に働きかけては。

答 町長・町議会議員選挙での対応は厳しいが、ファミリーをターゲットにした啓発は今後の検討課題とする。



新たな観光資源と魅力づくり

芦屋釜の里物語を映画に

芦屋釜振興課長

記録や発信を検討する

問 今後の芦屋釜の里の展望は。

答 収蔵展示施設のリニューアルオープンと重要文化財指定「芦屋釜」の公開がある。

新たなシンボルとしてシビックプライドの醸成につなげ、町内外からの集客の目玉として活用する。また芦屋釜物の技術継承、生産性向上、PRを図る。

問 町民からよく聞かれるが、立礼席で提供するものは今後増えるのか。

答 現在、年間を通して抹茶と干菓子を提供し、夏季

には抹茶アイスと冷茶のセットも選べる。大きく変更する予定はないが、施設の雰囲気と調和を図りながら魅力向上に努める。

問 30周年を迎える芦屋釜の里の物語をストーリー性のある映像コンテンツにしてPRする考えは。

答 復興事業や重要文化財指定「芦屋釜」入手の経緯

や一連の記録はまとまったものがないので、記録、発信は検討する。

芦屋港レジャー港化の現状と今後の展望

問 1500人の来町者に実施された観光動向調査の結果をどう捉えているか。

答 町内を回遊していない、

また消費額が少ないのが特徴である。目的地以外の情報を知らない、駐車場が分からないなど情報を発信できていないことが要因と考える。結果を今後の各施策や事業に生かしていくことが重要と捉えている。

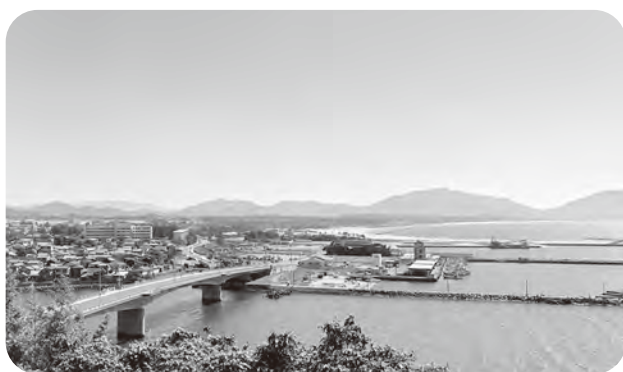
問 国の地域活性化企業人制度を利用して立ち上げた「みなと準備室」は、現状の2人体制では荷が重いと感じる。今後の活動や新たな登用は。

答 経験や知見から地域の現状を把握し、今後のチームの在り方やタスクの整理を行

い、将来的に自走できるよう人材育成の検討をしている。現在は2人体制だが、本年度4人程度の外部人材登用を想定しており体制強化を進めたい。

問 町のイメージやコンセプトを落とし込んで、海岸線に親しみやすいキャッチフレーズを考えては。

答 親しみを持ってもらえるようなネーミングやキャッチフレーズを検討する。



高台から望む芦屋港周辺

防災に関連する取り組み

避難ルートの整備は

総務課長

所管課と話を進める形に



信国のぶくに

ひろし 浩

録画中継

問 新総合防災マップの周知と活用を図りたい点は。

答 土砂災害警戒区域に江川台の登り口斜面を、新たな災害指定区域に魚見公園下の七田池周辺を追記した。また、最大規模を想定して作成した高潮ハザードマップでは、芦屋海岸、柏原海岸の浸水が想定されるとして記載した。①災害時の危険性を確認する、②災害への備えをよく読む、③家族でマイ・タイムラインを作成する、④避難経路を歩いて確認する、⑤防災情報の収集方法や入手先を確認するなどに活用していただきたい。

問 危険箇所の指定経緯や点検方法と警戒区域など今後の打開策は。

答 農林水産省などの新基準に沿って県が指定している。警戒区域など平常時は特に現状を把握していないが、大雨警報発令時は巡回などを行い、

崩落などがないか確認している。土砂災害警戒区域のハード整備は、町有地と民有地があるため整備は難しい。減災を進めていく上で、早めの避難を呼びかけていくことが重要であると考えている。

問 津波ハザードマップの指定緊急避難場所、浸水する恐れのある区域の自治区公民館を記載していない理由は。

答 浸水しない区域や、指定避難所、緊急避難場所などを全体的に見やすくするため、4つの公民館を削除している。

問 津波浸水時に陸揚げされた船舶などに起因する二次的災害の防止策は。

答 基本的には船の管理者や事業者が適切な対策を講じるべきと考える。

問 城山公園、梅林公園、魚見公園の安全な避難ル―

トを考えた整備計画は。

答 命を守る行動として、津波の浸水想定区域外エリアに避難してもらうことを第一に考えている。城山公園は地震により崩落する可能性があり、三軒屋から登ることができない点も考え、総合体育館や魚見公園など一般道から避難できるところへ避難してほしいと考えている。高台の公園整備は、時間と費用がかかるため、所管課と話を進めていく形になると思う。



避難ルートの整備が望まれている城山公園

いもかわ
妹川 征男
いくお



録画中継



バス停のベンチ、上屋の設置

今後の取り組み予定は

環境住宅課長

令和6年度から整備予定

問 巡回バスは交通弱者の通院・買物移動など高齢者の日常生活を支える重要な役割を担っている。バス停は何力所設置されているか。また、ベンチや上屋がない箇所は何力所か。

答 バス停は69力所ある。うち、34力所にベンチが、48力所に上屋が設置されていない。

問 ベンチがないために重い荷物を持つてバスを待っている方、上屋がないため風雨の時に困っている方、日照りの際に直射日光を受けながらバスを待っている高齢者を見かけるのが痛む。ベンチ、上屋を設置する場合、どのような条件があるのか。

答 設置して、なお幅員が2メートル以上確保できる歩道でなければならない。

問 条件を満たしているところが結構ある。高齢者が地域で安心して暮らせるよう、

ベンチや上屋の整備を積極的に推進する必要があるのでは。

答 令和5年度に新規設置や更新の必要性について調査・検討し、令和6年度から実施を予定している。



日照りの中、巡回バスを待つ高齢のご婦人

ナイター設備

問 野球やソフトボールを楽しむんでいたチームなどが利用していた芦中のナイターは老朽化などにより使用できず、東小も十数年前から使用できな

い状態になっている。郡内のナイター設置状況は。

答 岡垣町は総合グラウンド、遠賀町は総合運動公園多目的グラウンド、水巻町は総合運動公園多目的グラウンドと水巻中学校グラウンドの2力所に設置されている。

問 芦屋町ソフトボール連盟は6チームで組織され、そのうちの2チームはナイター設備のある遠賀町総合グラウンドで練習している。また少年サッカークラブは芦屋町総合グラウンドの倉庫から自家発電の照明器具6台を搬出入して練習するなど、大変な作業である。郡内でナイター設備がないのは芦屋町だけだが、ナイター設置を検討しているのか。

答 整備・改修については現在、実施計画に計上している。廃止も含めて現行設備の改修、新たな設置などの検討を進めている。



2019年に仕事の関係で芦屋町に家を見て、芦屋町民になった笑顔が素敵な田中ファミリーにインタビューしたちゃ。

新型コロナ 町独自支援に感謝

Q 感染症対策で生活様式は変わりましたか？

A 外出を控え家庭で過ごす時間が長くなり、ご近所

と過ごす時間が増えたことや、サイクリングロード、海浜公園、夏井ヶ浜はまゆう公園など芦屋町内の新たな場所の発見もありました。

Q 小さな子どもさんがおられて感染症対策には気を使いましたか？

A 小学生の子どもが2人いてコロナ対策が日常のルーティンとなりました。買い物は店舗の場所や時間を気にするように、セルフレジも意識しました。

Q 町民への感染症対策支援をどう感じていますか？

A とても手厚い支援で助かっていきます。町内で利用したことがないお店や施設を利用するきっかけになったと感じています。



夏井ヶ浜はまゆう公園にて

Q 今回第11弾の支援策が町より公表されましたが、どのように感じましたか？

A ここまでの支援は他の自治体では聞いたことがなく、感謝の気持ちでいっぱいです。

Q 芦屋町民で良かったと感じますか？

A 今回の支援に限らず、地域に親切な人が多いことや、モーヴイー芦屋などのレジャー施設や自然が豊富で子育てしやすい環境だと感じています。

議会を傍聴してみませんか？

次回の定例会は**9月1日**開会予定

本会議や委員会は、どなたでも傍聴できます。また、本会議は役場1階ロビーでライブ中継をしています。

※日程は変更になる場合があります。傍聴を希望する場合は議会事務局にお問い合わせください。(TEL 223-3579)

※新型コロナウイルス感染症の今後の状況によっては、傍聴をお断りする可能性がありますので、ご了承ください。

議会録画中継配信

詳しくは、芦屋町ホームページをご覧ください。なお、配信は本会議終了から7日後(土日祝日のぞく)になります。



録画中継で見た表決の様子



録画中継ページ

【発行責任者】
議長 辻本 一夫
【議会広報常任委員会】
委員長 萩原 洋子
副委員長 信国 浩
委員 内海 猛年
委員 本田 浩
委員 長島 智
委員 中西 昭



「三度目の正直」という言葉は、3度目は物事が期待通りの結果になるとの意味のようです。コロナ禍3年目にしたいところですが、過去2年は新種のウイルスとの遭遇で人との距離もソーシャルディスタンスでありました。現在もコロナ対策の基本は必要ですが、所を押さえないがらの地域行事も復活し始めました。皆様も健康に留意されながら芦屋町の地域行事をお楽しみください。

本田 浩